

114  
A 111

(一)



大郎 曩ニ臺灣總督ノ重任ヲ蒙リ一タヒ任地ニ就キ臺灣  
 澎湖及ヒ南清沿岸ヲ巡視シ將ニ其職ニ當ラントスルニ方リ  
 爰ニ將來施政ニ関スル方針ト緊急ヲ要スル經營ノ意見ヲ縷  
 陳シ敢テ廟議ノ處決ヲ請ハント欲ス  
 戰勝ノ結果トシテ臺灣ノ我帝國版圖ニ歸スルヤ其施設  
 經營スヘキ者諸多アリト雖トモ之ヲ要スルニ内ニシテ殖産興業  
 以テ富源ヲ開發シ外ニシテハ臺灣ノ地勢ニ據ラ國勢伸張  
 ノ他アラサルナリ孰ラ推フニ臺灣ノ施設經營ハ單ニ臺灣  
 ノ境域ニ止マラス更ニ大ニ對外進取ノ確策ナカルヘカラス抑モ  
 臺灣ノ澎湖列島ヲ挾ミテ南清ノ沿岸ト相對シ而カテ厦  
 門ノ要港ニ交通シ以テ南清一帯ノ地ト關係ヲ保キ南  
 洋諸島ニ連リテ遠ク南海ヲ制スルノ形勢ハ恰モ日本海ニ

大正十一年四月  
限 候 爵 郵 寄 贈

2786





於テ九州ノ對馬ヲ介シ朝鮮半島ト對峙シ釜山港ト交通  
密接シ以テ半島ヲ控制スルノ形勢ニ彷彿ナリ既ニ獨リ  
日本海ノ安然ヲ維持シ而シテ國威ノ失墜ナレト雖正將來ハ更ニ進  
シテ支那海ヲ壓シ南清ノ沿岸ト密接シ南洋ノ列島ト交通  
シ臺澎ノ地ノ利ニ據テ以テ天ニ國勢伸張ノ策ヲ採ラレハ  
遂ニ百年ノ憾ニ遺スニ歸セン

清ノ老朽積弊ハ永ク其版圖ヲ維持シ能ハサル、列國ノ既  
環視豫想スル處特ニ三ノ強國ハ遼東還付ノ報酬トシ  
將ニ彼レカ財政ノ權カヲ占得セント務メ其政策著々觀  
ヘキ者アリ一朝清ニシテ事端ヲ関カンカ強國ハ競ラテ彼レカ  
境土ノ割據シ以テ吾年ノ欲望ヲ達セントス此ノ時ニ當リ我  
帝國ハ果シテ如何ノ策ニ出ランカ空シク袖手傍觀セントモ  
即チ止ム苟モ風雲ニ乘シテ國勢ノ伸張ヲ計ラント欲セハ豫メ

(二)

其要意ナカルベカラズ而シテ之レカ要意タル者他アラサルナリ  
即チ南清福建一帶ノ地ハ以テ我有ニ歸セントス是レナリ此氣  
勢ヲ扶植養成セント欲セハ即チ厦門ニ密接ノ交通ヲ開始シ  
福建一帶ノ地ニ潛勢ヲ保フヘシ或ハ言ハシ大陸ニ我領土ヲ  
保フハ偶々以テ外交ノ紛擾ヲ醸シ國家ノ為ノ株ヲサレ屬  
敵艦近ク遼東半島ニ在リトス或ハ言ハシ境壤ヲ大國ニ接シ  
自國內治ノ紛亂ヲ招カヨリハ寧ロ之レニ近接セサルノ優レルニ  
如カスト此論議一理ナレト雖トモ是レ徒ラニ畏縮偏執ノ  
論ニシテ我帝國ノ爲政ノ主旨ト爲スニ足ラス遼東ノ轍ハ前  
者既ニ之ヲ識ル後者豈ニ顧慮スル處ナカラシヤ況ンヤ當時  
戰後ノ國勢止ムベカラサルモノアリテ存ス蓋シ苟モ國力ヲ量  
ラントモ時勢ノ異同ト實力ノ差違ハ以テ考究セサルベカラズ  
假令強國ト境壤ヲ接スルト雖トモ其強國ハ只版圖ノ擴張



ニ止ノ殖民地ノ造成ニ過キサルノニ其本國ノ首カハ遠ク歐洲ニ  
列シ而カモ其列國ハ相互ニ疾視反目ノ釁ヲ窺覷シ且  
苟安ヲ保フ能ハサルノ狀勢ヲ胚胎シ到底其首カヲ隔絶ノ  
異域ニ擴充スル能ハサルヤ瞭然ハタリ既ニ然リ強國カ僅ニ餘  
力ヲ以テ保護維持スル殖民地ト隣接スルモ焉ンク我内治  
ノ紛擾ヲ釀スノ虞アラヤ

臺灣地利ニ依テ南清ニ我勢力ヲ扶植養成セントスルハ敢テ  
難事ニアラザルノニナラス地勢上然ラレムル處ニシテ恰モ我九州  
ノ上海ト類繁交通スルノ狀ト一般ナリ南清ノ各港就中廈門  
ノ如キハ近ク澎湖ノ列島ヲ隔テ臺灣ト相向ヒ巨艦大船  
ニアラスト雖トモ極能ク僅ク數時間ノ航海ヲ以テ達シ從來  
彼此交通ノ要衝ニ當リ臺灣ノ貨物ハ一タヒ廈門ニ集  
收シ而シテ四方ニ輸出スルノ現狀ヲ呈セリ故ニ廈門ハ自今

(三)

我風教ニ貨物流入ノ新門口トシテ我政事上貿易上最モ樞要ノ  
區ナリ之レニ依テ以テ福建一帯ノ地ニ我潛勢カカラ扶植養成シ他日  
有事ノ極ニ備テ誠ニ無理ノ業ニアラス臺灣ト廈門ノ關係斯ク  
ノ如クナルヲ以テ臺灣ニ於ケル土匪暴徒ノ蜂起ハ該地人等ノ教  
化鼓舞スルニアラザルヤカト人ノ百憂ヲ慮スル處ナルモカニ事實  
ノ無キハ常ニ該地方ヲ偵察スル者ノ報告ニ依テ明瞭ナルニナラス  
現ニ本官親シク該地ノ我外交當局者ニ就テ確固不揺ナリ唯該地ニ  
於ケル清國政府ノ官吏或ハ政府ト密接ノ關係ヲ保ツニ三ノ高貴等  
邊ニ聲援ヲ與ヘタル事跡ヲキアラス然レトモ此地既ニ教數百年來外  
交貿易ノ風習アルヲ以テ一般人民ハ只管商業貿易ニ從事シ  
而カモ富有ノ商賈ハ既ニ泰西文明ノ何者タルヲ世見知シ我邦  
人ニ同情同感ヲ表スルモノアリ特ニ將來臺灣ノ事業ハ到底我  
邦人ト結託協同スルニアラザレハ其不利ナルトヲ世見知スルニ至レリ是



レ依テ考フルモ人心ノ傾向地勢ノ樞要ハ正シク我勢力ヲ養成  
扶植スルニ足ルノ要地ナリ翻テ朝鮮半島ニ於テ我勢力ノ  
如何ヲ顧ミルニ時々消長変化ナキニアラスト雖トモ其勢力ノ  
國內ニ潛入シタル實ニ異常ノ數ニシテ俄今半島ハ瓦解崩  
レニ三強國ノ併吞ニ任セトスルモ我潛勢力ノ有カナルヲ顧慮  
シテ容易ニ瓜分ヲ張ル能ハサルハ是レ現時ノ狀勢ナリ  
斯ル執力カノ扶植養成セウレシハ固ヨリ多年施政ノ爰  
ニ出テタルモノニシテ一朝一旦ノ業ニアラルヤ論ナキナリ朝鮮  
半島ニ於ケルノ証跡既ニ此如シ今臺灣ヲ立脚ノ地ト爲シ  
廈門ノ港門ヲ我執力ヲ南清ニ注入シ他日南清一帯地  
恰モ朝鮮半島ノ如クナラシムルノ要意ハ今日ニ於テ緊急  
切實ナル以所ナリ  
臺灣ノ地勢ハ獨リ南清ニ對スルノシテラス更ニ南方群島ニ

(四)

羽翼ヲ伸張スルニ適宜ノ地位ヲ占ム現今廈門ヨリ南洋  
ニ向ケテ勞働者ノ出稼スル者實ニ拾万ノ多キニ達シ隨テ南  
洋貿易ハ米穀雜貨極ノ多キニ達シ將來臺灣ヲ  
根據トシ南洋ニ向テ政事高事ノ執力ヲ伸張スルノ固  
ヨリ難事ニアラス之ヲ實行セントスル者ハ一ニ航海力ノ強  
弱如何ニ依テ存ス航海擴張ノ議既ニ廟議ニ存スルアリ  
然レモ臺灣及南清南洋ニ對スル航海擴張ノ議ハ本官  
又別ニ處見ノアルアリ要スルニ我日本帝國ハ前ニ日本海  
ノ安然ヲ保テ朝鮮半島ヲ控制シ浦鹽斯德港ノ咽喉  
ヲ扼セシカ戰後今日時勢一變所謂北守南進ノ策ヲ  
執リ日本海ノ區域ハ遠ク支那海ノ區域ニ進ノ其沿岸  
各地ニ向テ進取ノ計畫ヲ立ラント欲スルニ在リ  
以上方針ニ依テ以テ臺灣ノ經營ヲ企畫スルニ當リ其具



之緊急ヲ要スルモノ一行政機關ノ擴充ニ致シ察力ノ擴充ニ衛生行政ノ振張及阿片處分四航海擴張五鐵道道路築港等ナリ

第一行政機關ノ擴充ヲ計ル事

吉屋灣ノ我版圖ニ歸シテヨリ日月ヲ閱スル僅ニ歲其間殘賊乱ヲ作シテ蜂起シ匪徒群ヲ爲シテ横行シ軍旅勿忙民心爲ノ安息セズ本年四月總督府以下諸官制實施後行政機關稍々具備スト至トモ未タ以テ制度周到按撫ノ治績ヲ収ムル能ハス惟フニ臺灣ノ地タルヤ興産將業以テ開發スヘキ富源アリト雖モ瘴癘毒而務未タ清散セズ人情風俗ノ殊ルベキモノナク既性ノ制度依テ鑑ミル者ナレ而カモ島民ハ頑愚蒙昧動モスレハ及乱非舉ラ令テントス斯民ノ治道誠ニ至難ノ事業ナリ爰ニ松子守我

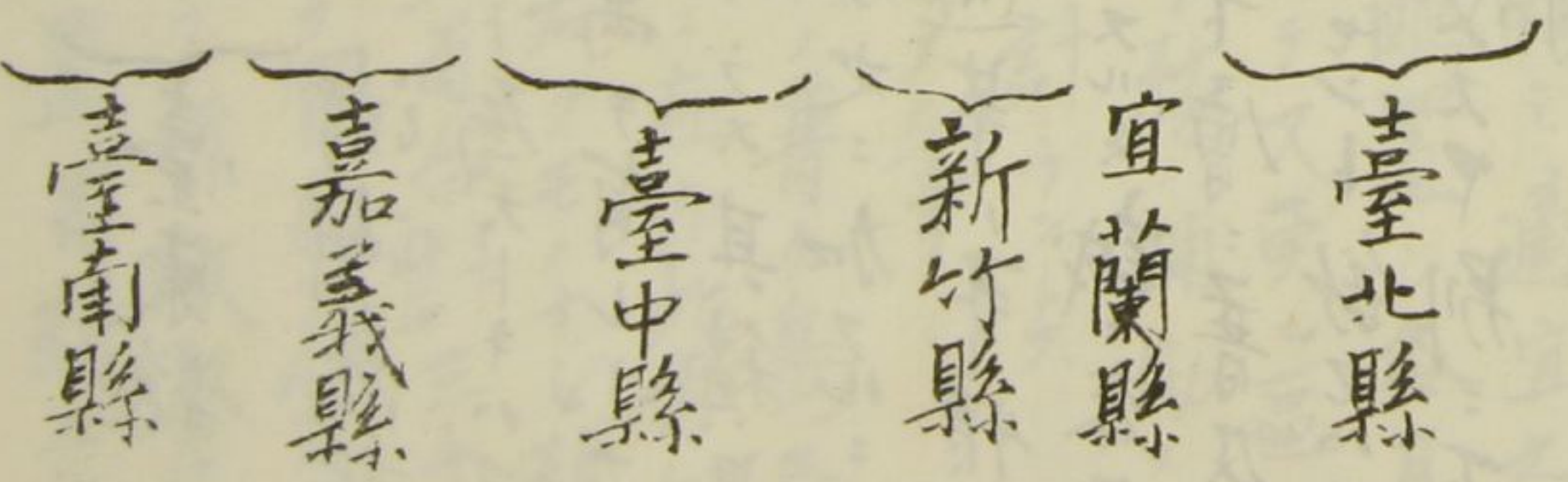
(五)

施政ノ百事剗初ニ屬シ臺灣百年ノ長計ハ之ヲ今日ニ講ヤルベカラス其經營ハ年緒百端タリト雖トモ緊急ヲ要スル第一行政機關ノ擴充ヲ計ルニ此行政機關ノ擴充ヲ計ルニ二階級アリ一新縣ヲ増設シテ行政區域ヲ縮少スルコトニハ下級行政ヲ施行シテ施政ノ周到ヲ計ルコト是レナリ現行官制ニ依レハ全島ヲ三縣一島廳ニ區劃シ縣ノ下ニ吏ニ十二支廳ヲ置キ以テ諸般行政ノ整理ニ充ツ然ルニ本島狀況ヲ觀ルニ人口三百餘萬ヲ有シ廣袤殆ント九州ニ過キ而カモ運輸交通ノ便ナク風俗習慣ノ同レカラサルアリテ政務ノ執行ヲ沮碍スルモノ歟ナラズ斯境ニ臨シテ僅カニ是等ノ地方官憲ニ依テ以テ政務ノ發達ヲ企圖スル固ヨリ望ムベカラス加フルニ現制ノ縣ト支廳ノ關係ハ支廳ハ縣ノ指揮監督ノ下ニ屬スルニ拘ハラズ實際縣ハ支廳ニ對



シテ監督ノ實ヲ舉クル能ハス支廳ハ縣ノ指揮下ニ在ルカ爲  
 ニ却テ政務カノ不便ヲ來ケル之ヲ永遠ニ繼續シ以テ本島ヲ經  
 營スル能ハサルハ既ニ現勢ノ實況ニ於テ明晰ケリ蓋シ現今  
 ノ地方區劃タル密年軍事組織ヲ行フニ方リ深ク内地ノ形勢  
 ヲ探知スルニ違アラズ單ニ從來清國政府地方區劃ノ制則  
 リテ民政支郡出張所ノ位置區域ヲ定メ本年官制ヲ  
 發布スルニ際シテモ亦之ヲ繼續シテ現今ノ縣支廳ノ位  
 置區域ヲ定メタルニ過キサルヲ以テ實際上施政ノ施行ニ  
 適應スルヤ否ヤ固ヨリ講究スルニ由ナカリシナリ然ルニ爾  
 未漸々地方ノ實況ヲ明カニスルニ迫テ是々實際ニ適應セ  
 サルモノアルヲ發見スルニ至リシヲ以テ茲ニ地方行政區劃  
 變更シ全島ヲ分テ七縣一島廳ト爲シ現制ノ縣支廳  
 ヲ分合シテ左ノ縣島廳ヲ置カント欲ス

- 臺北縣直轄
- 基隆支廳管轄
- 淡水支廳管轄
- 臺北縣宜蘭支廳管轄
- 臺北縣新竹支廳管轄
- 臺中縣苗栗支廳管轄
- 臺中縣直轄
- 臺中縣鹿港支廳管轄
- 臺中縣埔里社支廳管轄
- 臺南縣嘉義支廳管轄
- 臺南縣雲林支廳管轄
- 臺南縣直轄
- 臺南縣鳳山支廳管轄





臺南縣恒春支廳管轄

臺南縣臺東支廳管轄

澎湖島廳管轄

臺東縣

澎湖島廳

斯、如ク全島ヲ通シテ七縣一島廳ト為ストキハ其區域大ナル  
モ、面積四百餘方里人口六拾餘萬ヲ有シ小ナルモ尚ホ面  
積貳百餘方里人口三拾餘萬ニ下ラズ其積量ニ於テ既  
内地府縣ノ小ナルモノニ讓ラズ而シテ之ニ加フルニ土地未開  
民人蒙昧交通不便民情不通等ノ事情ヲ以テ如何  
ニ地方行政ノ周到普及ヲ計ラントスルニ誠ニ容易ノ業ニア  
ズ夫レ地方行政ヲシテ民間ノ下層ニ普及セシメ上下  
ノ意思ヲ疏通シ政令ノ施治ヲ完ラセント欲セハ固ヨリ此一  
階級ノ能ク企圖スヘキニアラス必ス甲別ニ下級行政機  
関ヲ置キ以テ政務施行ノ便ヲ圖カサルヘカラス即チ旧堡

里ノ區域ニ基キ地理山川ノ形狀ニ鑑ミ適宜之ヲ分合シテ  
全島凡ソ七拾餘箇ノ地方役所ヲ配置シ各具區域内ニ  
於ケル行政事務ノ衝ニ當ラシメ而シテ又更ニ區域内ノ衝庄  
ニ街庄總代人ヲ置キ以テ地方役所事務ノ補助ニ供シ上下相  
待テ大ニ地方行政事務ノ進捗ヲ計ラントス

第一ニ警察力ノ擴充ヲ要ス等事

臺灣行政ノ急要ナルハ 白王徳ノ普ク島民ニ治メト  
共ニ我憲政ノ趣旨ヲ知悉セシムルニ在リ此方針ヲ貫徹  
スルニハ行政警察力ノ擴充ニ若クモナレ現今總督  
府管下ニ於テ憲兵二千巡查千二百合計三千貳百警  
察力ヲ有スルモ憲兵ノ如キハ傍ラ軍務警察ノ職務  
ヲ兼掌スル者ナレハ其全力ヲ擧ゲテ行政警察ニ活用  
能ハス故ニ警察力ノ各要地ニ配置周到スルハ到底企



テ及ハサレヲ以テ現今ハ一縣教テ所ノ配置止テ僅カニ要衝  
ノ市街又ハ匪類蜂起ノ地ニ配置スル過キ  
不隨テ管轄區域廣濶深ク内地ニ入りテ實情ヲ穿  
ツ能ハサル勿論上下ノ意ヲ疏通シテ以テ政令ノ趣旨ヲ  
周知セシムルニ足ラス加フルニ支那海面ル沿岸一帯ノ多ク  
小船ノ寄泊ニ便ニシテ海岸警備頗ル忽ニスヘカラス  
モノアリ彼清國人ノ上陸或ハ阿片其他密輸入等ヲ  
防御示レテ島内ノ安寧ヲ保維スルハ今日ノ如キ微弱ナ  
ル警察力ニ依頼スヘキニアラス斯クノ如キ警察力微弱  
ナルヲ以テ匪徒兇賊ノ横行シ地方ニ不穩ノ形勢アルモ  
敬言察力ヲ以テ能ク鎮壓抑制スル能ハス動モスルハ守  
備隊ノ活動ヲ待テ僅ニ鎮制スル止ムヲ得サルハ出ス抑  
モ守備軍隊ハ具職トシテ嚴然持重シテテ活動セハ

(ハ) 掀天翻地ノ働ヲ為スモ日常兇徒土匪ノ一小紛事  
ニモ軍隊ヲ以テ活動セシメハ徒ラニ奔命ニ疲煩  
擾ニ堪ヘサレシメ何レニ因テカ勇ヲ甘蓄ヘ威ヲ持シ以  
テ有事ノ日ヲ期スルヲ得ルヤ守備軍隊ハ常  
ニ直接土民ノ鎮御ニ當ラス只間接ニ威嚴ヲ示シ  
テ懼服セシムルヲ主トス其土民ニ直接シ土匪兇徒  
ノ横行紛事ノ鎮撫ノ如キハ憲兵巡查ノ職ト  
シテ專ラ任セサルヘカラス然ルニ現在ノ如キ微弱ナル  
敬言察力ニシテ到底其任務ヲ完フル能ハス更ニ  
大ニ員數ヲ増加シテ内外ノ憂ヲ絶テ行政ノ實績  
ヲ堪ルルノ計畫ヲ為サルベカラス即チ茲ニ憲兵  
一千五百人敬言察官二千三百人ヲ増加シテ各三千  
五百人ト為シ之ヲ全島要地ニ配置シテ以テ刻



下ノ需ク急ニ應心セントス

第三衛生行政ノ伸張及阿片處分事

殖民衛生ノ事タルヤ近年各國競フテ改良ヲ圖ル所ニシテ我帝國ニ於テモ亦最新ノ事業ニ屬ス凡ク新領土ノ瘴烟垂雨ヲ侵シ開物成務ノ功ヲ達セント欲セハ宜シク先ツ殖民衛生ニ力ヲ致シ其土地ノ生民ヲシテ健全ナラシムルヲ以テ通軌トス殊ニ臺灣新領土ニ於テハ至難ナル衛生事項中叢モ至難尤阿片政策ノ一ルヤリ此處分ハ新領土行政中重要ノ一部ヲ占メ其施政ノ當否ハ實ニ全島治安ニ關スル所ナリト謂フモ誣言ニ非カルナリ然ルニ現制度如ク之ヲ民政局總務部ノ一課ニ於テ處理セシムルカ加キ小規模ヲ以テ到底真正鴉ヲ達スルコト難シ抑モ一般衛生ノ行政事務タル至難<sup>中</sup>ニ至難ナルモノニシテ學ニ

(九) 法例ヲ以テ實行スルコトヲ得不能ク人情風俗ヲ考查シテ適宜

ノ處分ヲ要スル場合少ナカラサルニ殊ニ漫然文明ノ法規キ此蕃地ニ移シテ施行セントスル如キハ其効ナキノシテラズ意外ノ危害ナレトセズ被ノ傳染病豫防方法ノ如キ飲料水改良ノ如キ下水排除ノ如キ本島ニ於テ總テ新設ノ事業ニシテ審査經營内外居民ノ安全ヲ畫策スヘキモノニシテ衛生ノ行政浸滯シテ擴充セサルトキハ各般ノ事業振作ヲ將大勵スルノ方策ヲ失シ且ツ島民ヲシテ皇德ノ餘澤ヲ感セシムルコト能ハサルカ否首般施政ノ宜シキヲ得ルヲ決シテ體ムベカラス夫レ蕃民ヲ撫育スルノ良策ハ恩化ヲ興フルニ在リ恩化ノ最モ感シ易キモノハ生命ノ安全ト健康ノ増進ヲ得セシムルニ若クモノアラス故ニ島民ヲシテ順服シテ將來ノ施政ヲ円滑ナラシムルハ今日ニ於テ衛生行政ノ周密ヲ謀ルコト



要務中、要務タル論ヲ撰クヤルナリ況ニ内地人ノ渡航  
移住ヲ奨メ勵スルノ急務ト對外ノ關係アルニ於テヤ  
阿片處分ノ事タル既ニ古論アリ或ハ嚴禁ヲ主張スルモアリ  
或ハ漸禁ヲ唱道スルモアリ嚴禁ヲ主張スル論ハ所謂座  
上ノ正論ニシテ實際ノ施政ニ明ナキモノト云ハカルヲ得ス長ク  
人命ニ害ヲ加ヘタル阿片ヲ新領土ニ嚴禁スルハ吾人最  
モ希望スル處ナリト云トモ人ノ嗜好ヲ急變スルキハ其及  
動ノ危害更ニ恐ルヘキモノナルヲ如何セシクシテ臺灣土民ハ  
子女孫々幾百年來阿片ノ害毒ニ浸染シテ習慣其性  
トナリ彼等惟一嗜好ハ即チ此阿片ナリ故ニ今日之ヲ嚴禁  
スルノ餘郷者ハ土民ヲシテ順服感化セシムルノ主旨ヲ達スル能  
ハサルノミナラス島民ニ對スル百般ノ施政ハ為メニ其歩ヲ進  
ムル能ハサルニ至ルコト勿論ナリ故ニ本官之レニ對スルノ方針ハ

(十)

是ヲ新スルノ要務實際的行政ヲ旨トシテ其惡習慣ヲ漸禁  
撲滅セントスルニ在リ此漸禁撲滅ノ事業頗ル至難ノ政務ニ  
シテ行政機關ノ能ク實行スルコト能ハス必ズヤ職責負擔ノ大  
スルノ機關ニ現行ノ如キ單ニ民政局長總務部ニ付托スルモノニ  
スルノ機關ニ現行ノ如キ單ニ民政局長總務部ニ付托スルモノニ  
シテ阿片ヲ政府專賣トスレバ更ニ左ノ諸項ノ如キ複雑ナル行政  
事務ヲ要ス

- 一 喫煙阿片特許鑑札、阿片喫煙店鑑札、及阿片販賣  
店特許鑑札下附事務
- 二 阿片喫煙用器具製造販賣事務
- 三 阿片之關スル諸收入會計事務
- 四 阿片喫煙者ノ檢査取締ニ關スル事務



以上陳フルカ如ク殖民衛生行政ニ関スル事務已ニ至難ナリ而テ  
阿片處分ニ関スル事務ハ更ニ至難ニシテ且大且ツ複雑ナル  
要務ナリ故ニ本官ハ總督府條例第六條中ニ加補シ  
臺灣總督府衛生院ヲ新置シ以テ衛生行政ノ事務阿  
片處分ノ事務ヲ掌理セシメ南初ノ目的ヲ達セント欲スナリ  
第四 航海擴張ノ計畫

臺灣ノ地タルヤ遠ク南海孤立シ西方澎湖列島ヲ隔テ南  
清沿岸ト對峙シ南方悉利比群島ニ相連リ我帝國南  
内ノ鑰鎖ナリ是レ對スル經營ノ緊急切要ナル者ハ交通  
ノ利ヲ開クヨリ急ニナラシメ試ニ見ヨ現今内地人ノ臺灣ニ在  
ル者文武官吏僚ヲ除キテハ幾許モアラス且幾許モアラ  
ザル少數ノ高價買ヒシテ猶十分ノ利益ヲ收ムハ能ハス一カハ  
隨

(土)

テ物價ニ非常ノ騰貴ヲ來タシ需要者ハ生計上非常ノ困難感  
スルト共ニ供給者亦供給ノ源泉ヲ失シ相率テ共ニ困難境  
遇ニ陥リ又手ヲ事業ニ下スニ由テカラントス臺灣ノ施政者  
タルモノ豈ニ顧慮スル處ナクシテ可ナランヤ現時内地ト臺灣ト  
間ニ於ケル交通機關トシテハ大坂商船會社ニ對シ總督府ヨリ  
一々年僅々六万円ノ補助費ヲ給與シテ神戶ヨリ馬關長  
崎・鹿嶋・沖繩・八重山ヲ經テ基隆ニ往復スル一線ト  
神戶ヨリ大島・沖繩ヲ經テ基隆ニ往復スル一線ニシテ船  
舶ハ壹千噸以上ノ汽船三艘僕我ノ航海ニ每月三四回ニ過ス  
外ニ本月ヨリ陸軍御用艦中教艦ニ御用仕貨客ノ外普通  
人民ノ仕貨物ト便乗ヲ許可スルコトナシ以テ僅ニ佳眉ノ急ヲ開ケリ  
交通ノ不便此ノ如ク生計ノ困難此ノ如クトモ又誰レカ熱帯者疫  
癘險ヲ冒セラ渡基タルモノヤランヤ内地人ノ渡臺移住者ナシ



トセンカ産業如何ニシテ興スヘキヤ拓殖如何ニシテ其實莫ク其  
クハ得ルヤ臺灣ノ經濟上今日ニ於テハ領ヲ先ク大ニ入  
ノ獲ラ内ノ内地人ノ渡航若クハ移住ニ便ニシテ貨物供給ノ道ヲ  
依テシテ以テ臺灣ノ事業ヲ發達セシムヘキナリ本官ハ即チ  
明治三十年度ヨリ相當ノ補助費ヲ支出シテ左ノ諸航路ヲ  
開始セントス

第一神戶ヨリ宇品・内司・長崎・三角ヲ經テ基隆ニ至ル航路  
第二神戶ヨリ鹿兒島・大島・沖繩・八重山・ヲ經テ基隆  
ニ至ル航路

第三神戶ヨリ基隆ニ至ル直航路

第四淡水ヨリ澎湖島・安平・打狗・卑南・蘇澳・花  
蓮河港ヲ經ル即チ臺灣沿岸航路

第五淡水ヨリ安平・打狗・香港・汕頭・廈門・福州ヲ

(三)

經ル即チ南清對岸航路

第一内地ノ中心市場ヲ起點トシテ貨客集散セルニ三要地  
ヲ經テ基隆ニ達スルニシテ内地貨客ノ臺灣ニ運送スル  
ヲ便ニスルナリ此航路ニ適當セル船舶ハ少クトモ二千五百噸  
以上ノ汽船三艘ヲ以テ毎月三回ノ航海ヲ爲シ其經費一々年  
三拾貳万六千五百五拾圓ヲ要ス而シテ其收入一々年拾五万三千  
五百四圓ノ概算ナリ収支差別拾七万三千四百六圓不足トシテ此  
不足ヲ補助シテ以テ本航路ヲ開始セントス

第二神戶ヲ起點トシテ九州・沖繩ノ要地ヲ經テ基隆ニ達スル  
航路ニシテ臺灣ノ近接セル内地ノ諸地方ト聯接シ以テ彼我  
經濟上ノ交通ヲ便ニスルノ必要ヨリ庚辰設セサルベカラカレ航  
路ナリ之レニ當ル船舶ハ貳千五百噸以上ノ汽船三艘ニ  
シテ毎月三回ノ航海ヲ爲シ一々年ノ經費三拾貳万六千五百五拾



四、要シ其收入ハ今年拾五万三千五百四円、概算アリ收支  
差引拾七万三千四拾六円、不足ヲ呈ス即チ此不足ヲ補助シテ  
以テ本航路ヲ開始セントス

第三、神戸基隆間直航路ニシテ即チ臺灣ト内地トノ通信  
運輸、迅速ヲ期スルニ在リ之レニ當ツルノ船舶八萬五千五百噸  
以上ノ汽船貳艘ニシテ毎月二回、航海ヲ為シ其經費一十年貳  
拾壹万五千六百拾四円ヲ要ス其收入ハ今年拾万貳千三百三拾六  
四、概算アリ收支差引拾万八千三百貳拾四円、不足ヲ呈ス  
此不足ヲ補助シテ以テ本航路ヲ開始セントス

第四、臺灣沿岸ノ航路ニシテ即チ臺灣沿岸各地運輸  
交通ヲ便セントスルニ在リ之レニ當ツルノ船舶八千貳百噸以上ノ  
汽船三艘ヲ以テ毎週一回、航海ヲ為シ其經費一十年拾五万七  
千九百三拾貳四円ヲ要ス其收入ハ今年貳万七千貳百九拾四円

(三)

ノ概算アリ收支差引拾三万六千六百三拾八円、不足ヲ呈ス此ノ  
不足ヲ補助シテ以テ本航路ヲ開始セントス

第五、淡水ヲ起点トシ安平、打狗ヲ經テ對岸南清諸港  
ニ對スル航路ナリ抑モ臺灣ノ高業ハ從來厦門福州ヲ初  
ノ香港其他南清一帶諸港ト密接ノ關係ヲ保テ今後ト  
望トモ猶モ臺灣ノ貨物輸出入ノ關係ハ依然舊狀ヲ守リ  
臺灣高工業ノ發達ト共ニ益々以上ノ諸港ト運輸交通  
ヲ頻繁ナラシムルノ傾向アリ果シテ然ラハ運輸上ハ勿論通信  
上ノ必要ナリ此間ニ定期航海ヲ開設セサルハカラス殊ニ厦  
門港ニ現時臺灣ノ最重要產物タル製茶ノ市場ニ  
シテ此港ヲ經テ外國ニ輸出スルモノ十中ノ九以上ニシテ  
清人、臺灣ニ移住スル者及ヒ出稼スル者厦門港ヨリ  
往來スル且取手數ヲ占ムルヲ以テモ本航路開始ノ必要ハ



敢テ辨ヲ俟クサルナリ加ナラズ香港ハ東亞貿易ノ重地  
タリ東亞通信ノ要衝タルヲ以テ臺灣ノ富源ヲ開發シ  
高工業ノ進捗ヲ企圖セントセハ本航路ノ開始最モ緊  
切ノ事其業タリ之レニ當ツルノ船舶ハ年五百噸以上ノ汽船三  
艘ニシテ毎周一回ノ航海ヲ為シ其經費一々年貳拾七万  
貳千貳百五円ヲ要シ其收入ハ港々年四万貳千六百四円  
ノ概算ヤリ收支差別貳拾四万九千六百壹円ノ不足ヲ呈ス  
此不足ヲ補助シテ本航路ヲ開始セントス  
以上五航路ノ航通開始シテ以テ臺灣航路ノ安全ヲ保クニ  
トス之レニ要スル補助費ハ總額八拾貳万五千五百五拾五円ノ多  
額ニ達セリ若シ夫レ經費ノ為メニ此航路ノ開始ヲ為ス能  
ハカランカニ臺灣ノ發達ハ即チ止ム後令巨額ノ補助費ヲ  
要スルモ國勢伸張ノ為メ將々臺灣發達ノ為メ敢テ

(二) 此五航路ノ開始ヲ希望シテ止マレル處ナリ

身五鉄道、道路築港事

臺灣内地迄来ノ状勢ヲ觀察スルニ恰モ封建時代ノ如ク各  
種ノ清人各處ニ割據シ個々分立只其堡ノ在ノ自存ヲ得ツニ  
過ニス道路未開、交通閉塞、吏ニ全島ヲ糾合貫通ス  
ルモノナリ猶人身ニ血脈閉塞セルカ如シ如何ニ施政ヲ活達ヲ  
計ラントスルモ何シテ其隆運ヲ期スルヲ得ンヤ今ニシテ一統一  
格ヲ計ラント欲セハ道路ノ南通ト鉄道敷設ノ外良策  
ナカルベシ而シテ臺灣ノ於ケル鉄道ハ之ヲ四區ニ區劃シ  
具第一區ハ基隆ヲ起點トシ臺北臺中臺南ヲ經テ打  
狗ニ達スル西海岸ヲ縱貫スルノ線路第一區ハ基隆ヨ  
リ宜蘭ニ達スル線路第二區ハ打狗ヨリ恆春ニ至ル線  
路第三區ハ恆春ヨリ東海岸ヲ貫通シテ宜蘭ニ達ス



ルノ線路等是レナリ之レリ敷設ノ緩急ヲ計レハ第一區線々  
ル西海岸縱貫線ヲ以テ第一區ノ基隆ヨリ臺  
北ヲ經テ新竹ニ至ルノ間ハ既設ノ鐵道アリト雖トモ其軌  
道ハ粗悪ノ敷設ニシテ殆ント改築ヲ施サバハ倚テ以テ陸  
上交通ノ安全ヲ保持スベキニアラズ就中基隆臺北間ハ  
既ニ鐵道隊ニ於テ改築ニ着手シ全通鞏固ヲ得ル處  
キヲ出テスト雖トモ臺北以南ハ如何ニシテ敷設ヲ完成セカ  
其經費ヲ調査セシムルニ及クトモ臺千八百万圓ノ巨額ヲ  
要ス此巨額ノ經費ヲ要スト雖トモ斯鐵道ニシテ母員  
通センカ以テ交通ヲ開發シ殖産企圖スベシ興業勃  
起スベキ守備隊ノ活動ヲ敏捷ニシ行政ノ統一ヲ確實  
ニシテ臺灣ノ隆敗興亡ハ一ニ此縱貫鐵道ニ依テ存ス故ニ  
本官ハ斯鐵道ノ官設ヲリ民設タルヲ問ハス最モ速成ニ

(十五)

貫通スルヲ希望スト雖トモ能クベクハ官設ヲ以テ敷設スルノ優  
レルニ如カサルナリ強ヒテ是レヲ官設トセシムル巨額ノ經費ヲ國  
庫ニ仰ケカ別ニ決員積ヲ募リテ費途ヲ求メシカ何レニ  
シテモ戰後經營ノ今日百般ノ政務俄カニ庖張シ幾多  
ノ政費ヲ要スルノ時機ニ當リテ此ノ新事業ヲ興起セ  
ントセハ更ニ廟議ノ處決ヲ要ス然ルニ頃日民間諸有  
志ニ於テ斯鐵道ノ敷設ヲ計畫スル者アリ若シ其計  
畫ニシテ完全ニ鞏固ノ組織ヲ以テ成功ノ見込ニアリトセバ  
左ノ方法ニ基キ私設ニ委ヌル敢テ異議ノ存スル處ナシ  
一臺灣西海岸縱貫鐵道ハ確實ナル私設民業ニ  
承シ以テ敷設ノ速成ヲ期シ政府ハ之ニ相當補  
助ヲ給與シ斯鐵道ニ對シテ臺灣總督運  
用上特殊ノ權能ヲ有スル事



二 既設鉄道中臺北基隆間ノ鉄道ハ官有ニ歸  
シ其改築ヲ完成シ以テ臺北基隆間ノ交通ノ敏  
捷ヲ計ル事

三 私設西岸縱貫鉄道ハ臺北ヲ起点トシ臺中臺  
南ヲ經テ打狗ニ達スルモノトス

四 臺北新竹間ノ既設鉄道ハ相當ノ價格ヲ以テ  
私設會社ニ擲下ルルモ妨ケナシ

道路ノ開通ハ現時徐々歩ヲ進メ其設計稍々不備  
ナキニテラスト雖トモ事業日ニ進捗セリ而シテ開通ノ方針  
ハ全島縱貫鉄道ノ線路ニ添フテ開敷シ其西部若  
成遠キヲ出テス東部亦其一端ハ宜蘭ニ達セリ全島東  
西ニ貫通スル即チ横斷ノ道路ハ縱貫鉄道ノ重モナル  
停車場ヲ中心点トシテ開通シ以テ東西ノ運輸交通ハ

(六) 又ヲ南北縱貫鉄道ニ依ラシメントス

臺灣ノ沿岸ニ幾多ノ港灣アリテ小船ハ寄泊スルヲ得ルト  
雖トモ大船巨舶ニ至テハ敷留ニ候ナラス臺灣ノ商業貿  
易ヲシテ發達セシメ交通運輸ノ便ヲ計ラシニ港灣ノ修  
築ノ事業亦緊要ノ一なり故ニ全島ノ兩端ニ在ル基隆  
打狗ノ兩港ヲ修築セシカ為メ既ニ其設計實測ニ着  
手セリ基隆ハ内地ト交通運輸ノ便ヲ關クノ要地トシ  
打狗ハ南清諸港ニ對シテ交通ヲ頻繁ナラシムルノ方針  
ヲ以テ其設計ヲ立テシメタルモノナリ西港ノ修築ハ日モ迅  
速ヲ望ムト雖トモ設計實測ノ時日ヲ要シ未タ經費ノ幾許  
ナルヲ積算スルヲ待サルヲ以テ之レカ經費ハ三十九年度ノ豫  
算ニ編入スル能ハス以上鉄道道路築港ハ臺灣ニ  
於ケル切要ナル事業ニシテ一ニ臺灣ノ隆興ハ七ニ存ス



國力發達ノ為メ臺灣經濟ノ為メ之レニ要スルノ經  
費ニ對シテハ敢テ高慮ヲ煩サント欲スル處ナリ

*[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]*

